

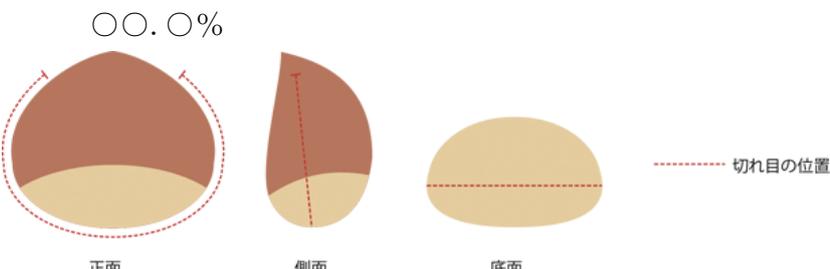
クリ調査方法Ⅱ

調 査 項 目	調 査 お よ び 記 載 方 法
A 樹性 a 樹齡 b 樹姿 c 樹勢 d 幹周	<p>接ぎ木後の生育シーズンの数。 ○年生</p> <p>樹冠の高さと幅の比率、枝幹の発生角度、伸長方向などを参考に観察により判定する。 直立： 中間：利平ぐり 開張：伊吹 直立 中間 開張</p> <p>枝幹や新梢の長さ、太さ、発生状態等を参考に観察により判断する。 弱：豊多摩早生 中：伊吹、石鎚 強：筑波、岸根 弱 中 強</p> <p>地面から20cmの高さの部位を測定する。 ○○.○ c m</p>
B 展葉期・開花期 a 展葉期 b <u>満開期 (雄花)</u> c <u>満開期 (雌花)</u>	<p>充実した前年枝のうち、先端の芽の第1葉が展葉した枝が樹内の20%に達した日。 月 日</p> <p>樹内の80%の雄花穂が満開になった日。 月 日</p> <p>3小花とも満開の雌花が、樹内の80%に達した日。 月 日</p>

クリ調査方法Ⅱ

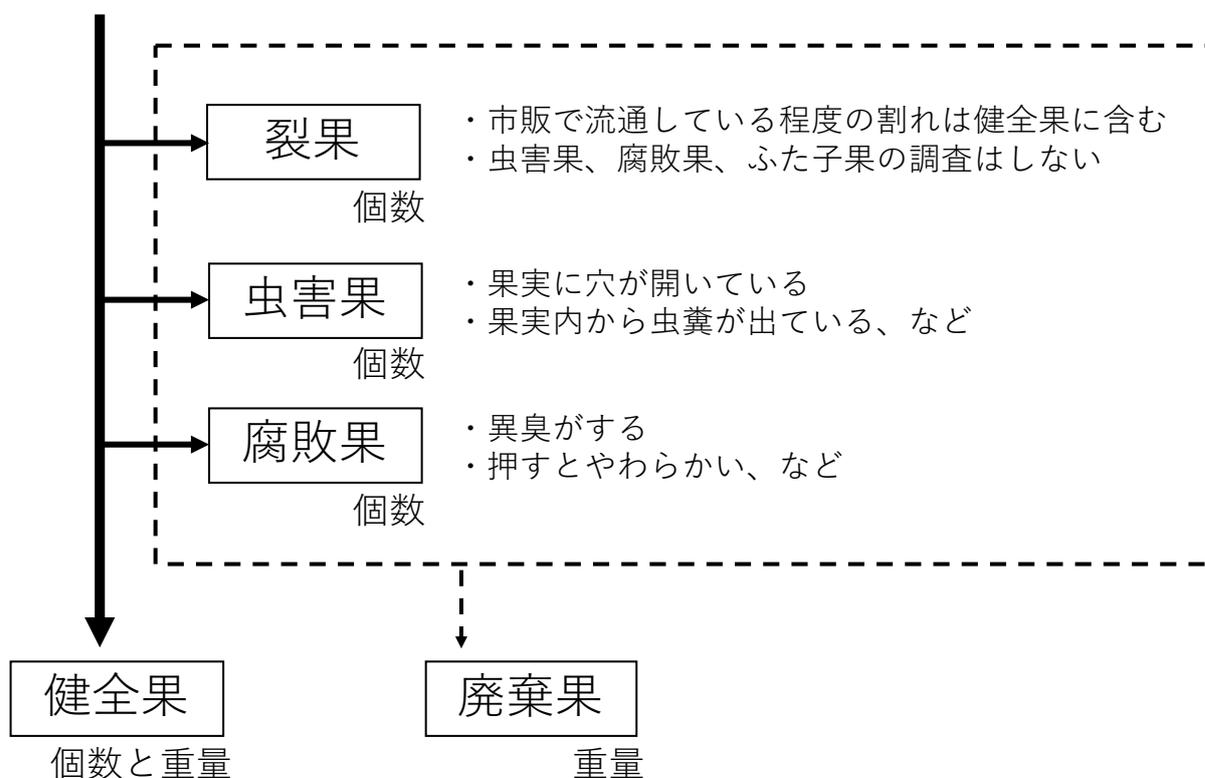
調査項目	調査および記載方法
C 収穫期・収量 a 収穫期 b <u>総収量</u> c <u>健全果収量</u>	始：連続して収穫を始めた最初の日。 盛：最高収穫量の日（前後の収穫量により多少修正）。 終：最後の収穫日。 月 日 当年の健全果及び廃棄果の合計収量（1樹平均）。 ○○.○kg 累年の健全果及び廃棄果の合計収量（1樹平均）。 ○○.○kg 当年の健全果の収量（1樹平均）。 ○○.○kg
D 果実の特性 a 1果平均重 b 粒の揃い c <u>ふた子果率</u> d 裂果率	健全果重量/健全果数。 ○○.○g 大きさ、形状の斉一度。 良 中 不良 ふた子果の割合（裂果を除く）。 ○○.○% 座裂果、果頂裂果を含む鬼皮の裂開を生じた果実の全収穫果に対する発生率。 ○○.○%

クリ調査方法Ⅱ

調査項目	調査および記載方法
<u>(4) 香気</u>	<p>少：森早生、利平ぐり 中：国見、石鎚 やや多：筑波、丹沢、ぽろたん 多：美玖里 2：少 3：中 4：やや多 5：多</p>
<u>(5) 総合評価</u>	<p>肉質や甘味等からの総合的な食味の良否。 1：不良 2：やや不良 3：中 4：良 5：優</p>
g <u>渋皮剥皮性</u>	<p>収穫後約1か月冷蔵した果実に、切れ目を入れてから加熱し、渋皮の剥皮性を判定する。オーブントースターに切れ目を入れた果実を並べ、600Wで15分間熱した後、温かいうちに渋皮を除去する。果実の表面積全体のうち果肉表面を傷付けることなく剥皮された部分が占める割合を渋皮剥皮率として、0-100%の11段階で評価する（0、10、20、… 100%）。10果を用い、平均値を求める。</p>  <p style="text-align: right;">----- 切れ目の位置</p>
E 耐病虫性	
a 腐敗果率	<p>収穫時における腐敗果の割合（全収穫果数に対する割合）。 00.0%</p>
b 虫害果率	<p>収穫時におけるネスジキノカワガ、モモノゴマダラノメイガの被害果の割合（全収穫果数に対する割合）。 00.0%</p>
<u>F 評定</u>	<p>◎：命名希望 ○：有望 △：継続調査 ×：調査中止</p>
<u>G 備考</u>	<p>果皮の変色、その他の病害虫、枝幹障害等を記載する。 総合的に評価し、今後の調査予定等を記入する。</p>

参考資料：果実調査の流れ

収穫果実



※ 黒変果は健全果に含める（明らかに腐敗している場合は腐敗果とする）
 黒変果の個数などは備考欄に記載する